

総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 電気料金審査専門小委員会（第9回）-議事要旨

日時：平成25年12月10日（火曜日）16時00分～18時00分

場所：経済産業省本館 17階 第1～3共用会議室

出席者

安念委員長、秋池委員、梶川委員、永田委員、松村委員、南委員、山内委員

オブザーバー

全国消費者団体連絡会 河野 事務局長

愛知県消費者団体連絡会 楓 代表幹事

日本商工会議所 青山 産業政策第二部副部長

消費者庁 片山 消費生活情報課長

説明者

中部電力株式会社 勝野 取締役副社長

主な意見

指摘事項への回答について

- 資料4 スライド5については、なぜ中電仕様でなければならない理由を聞いていた。仮に日本仕様だったとしても、なぜ国際標準品が使えないのか聞くことになるが、今回の件はそれよりも重要に見える。発電所の例はとてもいい例だと思うので、なんで中電仕様にしなければならないかを示して頂かないと要求した回答になっていない。
 - 平成25年度は38品目を対象に、仕様を公開したとあるが、例えば、38品目は当社仕様を使っているものの、ごく一部なのか、あるいは大半をカバーしているのか、どのようなものがあるのか、示すことは可能か。（安念委員長）
 - 資料に載せているのは、電力用通信機器を他社から調達した事例。各社の仕様の違いについては、ケーブルの色が違うだけという様なものと、元々規格が違うものがある。委員の趣旨は後者にあり、どのようなものを汎用化してきたかということにあると理解。配電のトランスなどは全国標準化してきたので、次回には各社仕様をなくしたものを、まだ残っているものを示したいと思う。（中部電力）
- 資料4 スライド4で正規職員増の要因として現場で作業するのに人が必要と説明しているが、アウトソーシングしないで正規職員を増やす理由とは何か。
 - 実際の施工はほとんどの場合、外部委託することになる。工事の計画、電気の流れの入れ切りする仕事、作業の管理などで中部電力の作業が増える。かつて工事が減った時、それに合わせて現場の人員をかなり減らしたが、最近は仕事が増えてきている。実際の仕事はかなりアウトソーシングしている。（中部電力）
- 平成15年から17年までの各年度採用数100人とは全員正社員か。なぜ後先考えずに絞ったのか。（安念委員長）
 - 当社は火力立地の会社であり、競争力をいろいろなところでつけようと、スリム化を行った。要員構成のひずみから、現場の技術継承が進まない頃に、地元の景気が良くなり、追い打ちがかかった。要員構成のひずみをとるために採用を増加させている状況である。（中部電力）

修繕費

- 効率化10%を織り込んで数字を作っているが、前回の原価と比べ、今回の原価が高くなっているものが多い。老朽化している設備が多い、老朽火力を活用しなければならないだとか、原子力への対応や、送電配電については、過去の繰り延べてきたものがあるだとか、ちょうど取り替えの時期が来るなど色々な理由を説明してもらった。繰り延べは本来的にいいものだと思うのだが、会社の危機という中で、この先3年間も必要なものみに絞ることはできないのか。
 - 単なる繰り延べは無理があると思う。今回は使用状況によって、個別に見て繰り延べできるかどうか見極めている。例えば大型の変圧器は、中身の劣化が進んでいないものは、見極めて更に使っていかうと考えている。修理の物量は増えているが、トータルのコスト削減にするようにしている。送電・配電も基本的には同じであるが、配電は数が多いため、計画的にやっている。（中部電力）

- 一気に老朽化するわけではないのだから、今回の原価で、もう少し抑制することはできないのか。個体差を見ているということだが、工夫の余地はないのか。
- 内訳を見ると、水力は微減で、火力はかなり落ちている、原子力は30年稼働すると、（評価をすると）規則で決まっていたはずだが。（安念委員長）
 - 浜岡3号機は平成29年に運転30年になり、高経年化技術評価をすることになっており、増額となっている。（中部電力）
- 技術評価の費用は原子力の修繕費の増額分にかなり効いているのか。（安念委員長）
 - 増分は確認する。（中部電力）
- 配電の額が大きくないか
 - 配電は、ひたすら取り替えが必要。例えば、OCが劣化したので張り替えてきたが、OC—Wも腐食が進み始めている。資料6-1スライド20のOEは断線のリスクがあり、40年で張り替えを始めている。（中部電力）
- 費用がかさむことはわかるが、他社も同様の断線のリスクが生じるのではないか。（安念委員長）
 - 当社は銅線を使っているが、他社はアルミ線を使っている例もある。他社も工法が同じであれば、同様の断線リスクが生じる。（中部電力）
 - 銅線はリサイクルすることが可能でコストを抑えることができる。アルミは沿岸部では腐食することがあるので、対策を進めている。（中部電力）
 - 今後も留意しましょう。何か資料があれば出して欲しい。（安念委員長）
- 資料6-1 スライド4の配電の表で普通修繕費と取替修繕費を足し、効率化を引くと、計の数字にならないが、数値は正しいのか。また、スライド6の効率化額とスライド7の効率化額が合わない。
 - 数値が間違っていたので、訂正したい。スライド6の効率化額と合わないのは、その他の効率化額があるため。（中部電力）
 - 次回までに訂正版と分かりやすくした版を出していただきたい。（安念委員長）
- 配電部門の高経年化で出されているものは、取替修繕の内数という理解で良いか。これを除くとだいたい540とか560で安定しており、増加要因はほとんど取替修繕ということで良いのか。
 - しかり。（中部電力）
- 増加要因を除いた取替修繕は安定的に流れているが、これよりも前の数字を教えて頂きたい。平成16年ごろに修繕費が減っているが、高経年化対策だけでなく、通常の修繕も後ろ倒しになっていないのかお聞きしたい。これは人員の話にも繋がるものである。
 - 一般論的な話として、巡視や点検の頻度はそれらの品質を下げないレベルで回数を減らした時期があった。額は改めて示したい。（中部電力）
- 資料6-1 スライド5について、分かりやすい資料を頂き感謝。このことは中部電力だけ言えることか、他電力に対しても言えることか。
 - 例えば、鉄塔の塗装は亜鉛メッキをするが、錆びはじめるのは40年から50年で、工法が同じであれば他社でも言えること。特殊地区の電線については、海岸に近いところは腐食が進みやすい傾向がある。一般地区の電線についても、他社とあまり変わりはないと思う。（中部電力）
- だいぶ納得した。ただし、例えばFCを建築したくないというときには、鉄塔を30~40年で償却すると主張し、修繕を行いたくないときには、100年使えると主張するような、都合のいいように数値を操作するようなことがあれば、これを元に検証させてもらう。

スマートメーター関連費用

- スマメにかけるコストに見合うような利益があるのか、という点については、「当然ある」と思っている。オール電化の家庭には、スマメよりもはるかに機能が劣り、単価も高い電子式計器がとりつけられている。多額の普及開発費をかけてオール電化を促進し、高いメーターを入れ、料金もかなり割り引いてもなお、社会的利益があり、入れていない家庭にも利益があるくらい効率が改善した。スマートメーターはそれよりもはるかに機能として上回っており、単価も安い。全体としてペイしないはずがないと思う。
- 修繕費のうち、配電部門の取替修繕費が今回かなり大きいと言われているが、メーターは10年使えたとしても、資産とせずにつけたときに修繕費としてカウントするという特殊なやりかたを行っているため。この3年で増えているように見えるけれども、ライフサイクルで見れば十分に効率的。額が大きく見えていることで、消費者に誤解を与えているのだとすれば解かないといけなと思う。
- 豊田市での実証には期待している。中部電力も大きな役割を果たしていただいていると思うので、その成果を活かして、更に効率化を進めて欲しい。今後も、安定供給を理由に止めることがないよう、中部電力のせいで止まったということがないよう、全面的に協力してほしい。
 - 豊田市での実証には、全体の事務局にも幹事として参加している。保安上の問題がない限りは協力している。（中部電力）
 - わずかな逆潮流が系統に与える影響があると言って、止めるなどということはないでいただきたい。
- 通信のRFPについては、かなりの程度のことをやっており、コストが下がっているのではないかと期待しているが、例えば自社の光ファイバー網を使うことを前提にやっている面もあり、既にある光を少し延ばすだけというところが本当に合理的か見る必要がある。
 - お客様の居住エリアには既に光の自社網を有している。今回、中継装置2万個を新設するため、既設の光ファイバーから中継装置までの光ファイバーを、1個あたり平均50mを付け足す計画。新規の部分もあるが、基本的に既設を利用している。詳細は別途ご説明する。（中部電力）
 - 自社網かNTTか、コストパフォーマンスで決めるということか。（安念委員長）
- スマートメーターの単価10,300円は平成28年までに限った単価か、平成34年までの計画をみた上で見込んだ単価なのか。また、現行計器は4,300円とあり、6,000円程度プラスされることになるが、回収にどのくらいの年数を見込んでいるのか。
 - 費用対効果の試算上は、平成34年までは10,300円として計算している。その後はリサイクルで安くなる。（中部電力）
- 計器の単価は、本来的には下がっていくものではないか。

- コストの低減は御指摘のとおりだが、料金原価上は、3年間の単価を（10、300円と）横置きしている。回収については、費用対効果の試算のとおり。一般のメーターは、平成34年度までに取替を行っていく。（中部電力）
- 現行計器の4、300円とスマートメーターの10、300円は、計器単価なのか取替単価なのか。
 - 計器単価である。（中部電力）
- スマートメーターの導入は、早く入れていただけるよう頑張っている。豊田市の実証の話もあったが、メニュー提案もしっかりやって欲しい。
- 先行他電力では、緊急時の電池代が話題になったが、どのように考えているのか。
 - 電池代は、（実際につけるかどうかは別にして、）過去の委員会の査定で削ってしまった。（安念委員長）
 - メーターの時刻は、システム側で把握できるような設計としており、電池はないことを前提としている。停電復帰後などで、時刻の補正が必要な場合は、通信により設定し直すことを考えている。（中部電力）

その他経費・控除収益

- 資料5 36ページの他電力会社の査定原価との比較は、東京電力を1としているので、1より大きいものは本来問題だ。1より高いからと言って乱暴に切ることはないが、一つ一つ確認していく必要がある。他の電力会社で大きいところがあるから問題ないと決まるとは言いにくい。
- 普及開発費については、余分なものが入っているのではないかと疑っている。値上げの局面で、料金の中で使ってやるべきでないものが入っているような気がする。審査の段階では相当詳しく聞くことになるので、中部電力も協力して欲しい。
- 普及開発関係費は資料中に今回の申請値しか載っていないが、実績がない。それ以外の部分も含め、実績を出して欲しい。比較できるように直近の数値を出して欲しい。
 - 承知した。（中部電力）
- 廃棄物処理費が今回25%くらい増えている。廃棄物がそれくらい増えていることだろうと考えるが、ASECの使用はどれくらいの年数を見込んでいるか。
 - リーマンショック以降、灰の再利用が進まなくなってきた事もあって、急激に増えている。次期灰捨地の準備をしているが、それまでは自社の埋め立て地を少しずつ延命化しつつ、ASECに出して、次期灰捨地ができるまでつないでいこうと考えている。（中部電力）
- 石炭灰の減容化はできるのか（安念委員長）
 - 灰自体はセメントまで再利用可能。灰はコストがかかるが、圧力をかけて縮めている。（中部電力）
- 社債発行費の前提として、社債発行額はどれくらいとしているか。自己資本比率が高いことによって、ファイナンスが有利になるということと関係するのかわからない。あるいは、社債を発行できる環境にあること自体が、財務の健全性を示しているということか。直近の社債の発行はいつか。
 - 震災後は平成24年9月に期間5年で200億円、平成25年6月に期間10年で200億円の2回だけ発行している。（中部電力）
 - 社債発行条件はどうやって決まるのか。（安念委員長）
 - 証券会社との相対で決まる。
 - 社債発行の想定額は平成26年から平成27年は1500億、平成28年は2000億として計算している。（中部電力）
 - 総資産と負債と資産項目の構成要素が3年間は変わらないという主張との関係を整理したい。
- 普及開発関係費が前回に比べ61億円減少というのは一般の消費者からすると、こんなに使っていたのかと驚いた。一般消費者から中部電力はバス見学会を沢山実施し、立派なパンフレットを出しているという。今回も19億円入れているようだが、消費者感情からすると、立派なパンフレットとバスを用意した見学会は本当に必要なか疑問。少なくできるのであれば、別の形を考えていただきたい。
 - 華美に見えるパンフレットについては、カラーを白黒にすることや、紙の質を見直す等していきたい。（中部電力）
 - 見学会については、今回の原価算定期間中で増やしている。浜岡の安全対策とその必要性について、一人でも多くの人にご覧いただきたいと、バス代だけ負担する形としている。エネルギー政策を踏まえて、再稼働に向けて、理解していただきたいと思っている。（中部電力）
- 資料6-3 スライド18にある委託費で、火力と配電が大きなかごぼことになっている。具体的にどのような内容を教えて欲しい
 - 火力の「LNG基地管理業務委託の減」については、東邦ガスに知多半島緑が浜にあるLNG基地の管理業務委託費を払っているが、その減価償却が終わったために委託費が減少している。配電はスマートメーターとPCBの処理が増えている。変電の方にもPCBが入っており、これの処理が決まったことから上がってきた。販売、一般管理は情報処理システムの支出を要因別に分類した。（中部電力）
- 配電・スマメについては資料6-3 スライド19と20に色々書いてあるが、システムへの対応と言うことか。
 - しかり（中部電力）
- PCBの処理が決まっていなかったときには、トランスは変電所に積んでいたのか。その分のクラッシュ費用がかかっていたのか。（安念委員長）
 - しかり。トランスは一カ所にまとめて保管していた。（中部電力）

財務状況

- 内部留保があるのになぜ値上げをお願いするかについて、消費者にとって分かりやすい説明をお願いしたいと言った一方で、自分の中でどう考えたら良いかと思っていた。原発停止後3年間値上げをしなくてもできていた、規制部門への値上げ幅が他社と比べて半分くらいの申

請であることの両方がこれまでの健全な経営の結果だと消費者に対して言えるのかどうか。

→ 自己資本比率に関し、キャッシュフローがないという点はわかりやすく説明したい。何とか3年間やってきて、効率化の成果を踏まえて値上げ幅をできる限り押さえた。我々も汗をかいてきたことも説明させて頂きたいと思っているので、次回までに説明したい。

(中部電力)

→ 内部留保という言葉が、使われていない現金が積み上がっているかのような誤解したイメージを喚起してしまっているのではないかと個人的に思う。(安念委員長)

以上

関連リンク

[電気料金審査専門小委員会の開催状況](#)

お問合せ先

資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 電力市場整備室

電話：03-3501-1748

FAX：03-3580-8485

最終更新日：2013年12月19日